

# 議会だより

みなみふらの



**第2回定例会概要**

**2～3 P**

**一般質問**

**4～6 P**

**町長の行政報告**

**6～11 P**

**教育長の教育行政報告**

**11～12 P**

**研修・視察報告**

**13 P**

**議会の動き**

**14 P**

# 令和元年第2回定例議会

令和元年6月19日～21日

令和元年第2回定例会は、6月19日招集、会期を6月21日までの3日間と決めた後、議会運営委員会の調査報告があり、2議員による一般質問（質問の内容と答弁の要旨は4～6ページに掲載）が行われた後、繰越明許費繰越計算書及び株式会社南富良野町振興公社の経営状況について報告を受けました。引き続き、令和元年度一般会計補正予算及び、条例の一部改正6件、北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更等3件について、審議の結果、原案のとおり可決し、1日目を終了しました。

第3日目の6月21日は、工事請負契約等3件について、原案のとおり可決した後、議員提出による決議案「議会広報特別委員会設置に関する決議」について審議の結果、原案のとおり可決しました。引き続き、議員提出による意見書案4件についても、審議の結果、原案のとおり可決し、全ての日程を終え定例町議会を終了しました。

## 条例の一部改正

○南富良野町税条例の一部を改正する条例

軽自動車税環境性能割に係る賦課徴収は、10月1日から当分の間、市町村に代わり北海道が行うことから、課税免除及び非課税の要件を自動車税環境性能割（北海道税条例）に合わせる改正です。

○南富良野町国民健康保険税条例

基礎課税額に係る賦課限度額の引き上げ並びに低所得者の軽減措置の対象を拡大するため、5割軽減及び2割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得を引き上げる改正です。

○南富良野町廃棄物の処理及び清掃に関する条例

学校教育法の一部改正により技術管理者の資格基準を改めるものです。

○南富良野町介護保険条例

介護保険法施行令等の改正により、消費税増税による低所得者対策として、第1～3段階の世帯の保険料の軽減強化をするものです。

○南富良野町土地改良施設管理條例

鳥獣害防止施設の復旧、及び増設を行ったことによる施設延長等を変更するものです。

○南富良野町水道事業の布設

工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例

水道法施行令及び水道法施行規則の一部改正により改めるものです。

## その他

○北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

○北海道市町村総合事務組合規約の変更

○北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

構成団体の解散に伴う規約の変更です。

○辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更

国営造成土地改良施設整備事業を追加するものです。

○工事請負契約  
・契約の目的

避難所非常用発電機設置工事

・契約の方法  
地域限定型一般競争入札による契約

・契約金額  
5280万円

・契約の相手方  
東邦・山下特定建設工事  
共同企業体

○南富良野町特定環境保全公  
共下水道南富良野浄化セン  
ター他更新工事委託に關  
する協定の締結

・協定の目的  
南富良野町特定環境保全公  
共下水道南富良野浄化セン  
ター他更新工事委託

・協定の方法  
随意契約

・協定の金額  
1億2900万円

・協定の相手方  
日本下水道事業団

・協定締結年度  
令和元年度  
完成の期限  
令和3年3月31日

○財産の取得

・取得しようとする動産  
総合行政システム等ソフト  
ウェア 1式

・取得金額  
1548万7200円

・取得先  
北海道市町村備荒資金組合

### 一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3788万3千円を追加する補正予算を原案のとおり可決しました。この補正により、一般会計の歳入歳出予算の総額は39億3323万3千円となりました。

〈主なもの〉

- ・避難所・避難場所等看板作製委託料 158万円
- ・国土強靱化地域計画策定委託料 429万円
- ・プレミアム付商品券事業補助金 319万円
- ・デイサービスセンター玄関スロープ修繕費 248万円
- ・強い農業・担い手づくり総合交付金 1839万円
- ・奨学資金貸付金 192万円

## 議会広報特別委員会を設置

今定例会において、議会広報特別委員会設置に関する決議案が提案され、設置されました。

議会広報特別委員会は地方自治法第109条及び委員会条例第4条を設置の根拠とし、委員定数は7名で、住民に議会活動を理解してもらうための議会広報の発行及び調査研究を目的とし設置するものであります。

議会広報特別委員会では議会広報を通して住民の皆さんに議会の内容、活動状況を把握し理解していただくよう、今まで同様身近なものとしてご愛読いただけるよう見やすく、わかりやすくを目標に紙面づくりをしていきたいと思っております。住民の皆さんに少しでも議会に関心を持ってもらい、身近に感じてもらえるよう考えていますので、お気づきの点などありましたら事務局までお寄せください。



### 委員会の構成

委員長	中野 博司
副委員長	洪谷 浩岐
委員	遠藤 謙一
委員	鹿野 重博
委員	酒井 年夫
委員	阿部 修一
委員	大道 重治

## 議決された意見書

～議決された意見書は、議長名でそれぞれの関係機関に提出しています～

- ◆日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書
- ◆2019年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
- ◆2020年度地方財政の充実・強化を求める意見書
- ◆「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現に向けた意見書



## 一般質問（要旨） 酒井 年夫 議員



### 問 住民に対する広報のあり方は

### 答 丁寧に住民への情報提供を進めたい

#### ① 住民に対する広報のあり方について

**酒井** 現在、町としてJR根室本線の災害復旧、道の駅一帯の整備計画、ログホテルラーチのあり方等々、本町の将来を左右する課題が山積しているが、住民の中でもどうなっているのか関心を示しているが、現在、先への展望など、行政としての取り組みが断片的な情報しか知られていない。住民の方々も関心を持ってもらうことが必要と思うが、行政としてどのように考えているのか。

**町長** 広報のあり方については、議員からのお話を肝に銘じながら、一つ一つ丁寧に、町政への参画と協働のまちづくりを推進していくため、住民への情報提供が重要ですので、今後行政報告をはじめ、広報紙、ホームページ、移動町長室、自治会代表者会議などを通して、情報提供に努めてまいりたい。

酒井議員が常日ごろ住民

とのコミュニケーションを深めているということについては、私も敬意を表している。

数が少なくなつた議員の皆様方についても、お忙しいわけでありますが、それぞれのお立場、それぞれの地域の中で、行政とこういう話をしている、実はこういうことだということを、議員活動の中で、可能な限り情報提供のご協力をお願い申し上げ、行政と議会との一体の中で、自助・共助・公助という立場でご協力いただきたい。

#### ② 社会福祉法人大乗会の運営について

**酒井** 障がい者支援施設や介護老人福祉施設等、本町の施設福祉の中心となっているが、運営等がどうなっているのか。町経営ではないが、町長は顧問でもあり、町より資金助成もしており、本町の福祉の重要施設でもあるが、施設の収容人員、職員の配置等々、今後とも安定した経営が続けられな

ければならないと思うが、指導機関として資金援助もしている観点から、顧問である町長に現況や今後の展望について、どのようにみているのか。

**町長** 大乘会の昨年度の経営状況については、法人全体の収支では健全経営となつているが、老人施設については、介護報酬の引き下げ、介護職員の不足から定員に達しない状況もあり、老人施設の部分については大変厳しい経営状況だと承知している。

町としても直接ではないが、間接的には大いに町の関与した施設、法人であると思つている。外国人の介護職員の受け入れについても、町と大乘会で検討し、東川町の外国人学校との連携を図っている。老人福祉施設は、町民が住み慣れた本町で生活していくために必要な施設であり、各施設が安定した経営を図っていたら、多くの利用者や職員、職員の家族が本町で生活していただくことが、まちづ

くりの基本であり、南富良野の根幹である。大乘会、社会福祉協議会、南富良野町の3つが組織する福祉担い手対策会議において、人材確保について協議を進め、行政としても必要な支援の検討や行政指導をさせていただき、大乘会と具体的なことを進めていきたい。



## 問 各地区・町内会への町職員の協力について

## 答 職員は住民として協力し行政として課題の検討していきたい



一般質問（要旨）  
阿部 修一 議員

### ① 町職員の採用などについて

【阿部】 町職員の逝去に伴い、職務などの支障が発生していると思われるが、それに伴う職員の採用や職員の配置などについて、検討されているのか。

【町長】 去る5月、主に大型車両の運転管理を担当していた職員が亡くなり、職員の補充については、今後の定員管理を含めて慎重に判断すべきと考えている。当面、行事などの送迎用バス運行については、職員で対応できるものは職員で、それができないければ、外部へ委託する考えでいる。

冬期間の除雪等に伴う重機の運転及び管理については、直営で行えるか外部委託が望ましいのかを検討しているところ、住民の方々の生活に支障のないようにしていきたい。

### ② 各地区、町内会に対する職員の配置について

【阿部】 町内の各地区、各町内会に対して、担当制を設けるなど、必要に応じ町職員の方々を配置され、各地区などの事務・事業・行事等について、協力していただける体制を検討いただけないか。

【町長】 各地区、町内会に対する職員の配置については、過去にも論議を行ってきたが、なかなかそこまで行かずに現在に至っているところである。各地区、町内会の運営については、それぞれの地域の住民の皆様方が自主的に活動していく中で、行政として、やるべきこと、

自助・共助・公助という中で行っていくという方向性が現在進めてきている行政の考えであり、自治会等を住民自治の一翼を担う地域組織として位置づけ、町政への住民参加と協働の理念のもと、行政と地域が連携し現在進めているが、人口減少や事業所の閉鎖、学校

の統廃合など各地域の自治会、町内会の組織が大きく変わってきている。

各町内会等に居住している町職員は住民の1人として、業務でなくボランティアとして協力していただいている。各自治会の課題については自治会代表者会議を開催して実情を聴き、行政としてどのような協力が可能なのか検討していきたい。



### ③ 教育の推進・振興について

【阿部】 基礎的・基本的な知識、思考力・判断力、主体的に学習に取り組む態度を重視され、また、タブレットなどの機器の活用や土曜授業や習熟度別学習、長期休業中の補充学習など多様な取り組みを展開し、小学校での英語授業、ＩＴ学習などより多くの学習が取り入れられているが、現行の教員体制では教育の充実と推進を図ることは困難ではないかと思われるが、今後の教育の推進をどのように考えているのか。

【教育長】 現行の教員体制については、教育の機会均等と教育水準の向上を保障するため、学級数や児童生徒数に基づき教職員定数が定められており、規定の人数が配置になっている。南富良野小学校の場合、ＴＴ（複数の教師が協力して行う授業）による支援、習熟度別学習の実施、長期休業中の学習サポートの実施などに取



り組むことで、教職員定数以外に、加配教員を配置して、教育の推進に努めている。支援が必要な児童生徒に対しては、学習支援員を町費負担で配置している。

学力・体力の向上については、現行の教員体制で毎日の授業の積み重ねや生活習慣の改善など、検証改善サイクルを確立し、教員の指導力向上を進め、来年度以降、小学校から順次実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点に基づき授業改善を組織的に進め、引き続き、教育の推進を図っていききたい。

## 町長の行政報告



### ■平成28年の台風により被災した農地の土壌調査及び収量調査について

被災農地における営農復旧を着実に推進するため、北海道と町が一体となつて昨年度から土壌調査や収量調査を実施しておりますが、その結果によりますと、地力の回復が未だ脆弱なものであることから、主な作物の収量では、大麦で1割から2割、種子馬鈴薯では3割から4割、人参においては4割から7割の減収が明らかとなっており、被災農業者からは、その対策として暗渠、除礫、心土破碎、堆肥の散布、肥沃な土壌の客土など、更なる土地改良事業の実施を望む意見が寄せられているところであります。

す。

現在は、各農業者へ個別に要望事項やご意見など聞き取り調査を始めており、圃場ごとに施工要望内容を取りまとめた上で北海道と協議を行い、早急に具体的な対応策をまとめ、町としての支援策も併せて検討を進め、被災農地の営農復旧をさらに推進強化してまいります。

### ■被災農地に係る鳥獣害防止施設の復旧について

平成28年の豪雨災害により被害を受けました幾寅地区の鳥獣害防止施設10・9kmについては、今年度162mの施工が完了し、全体で9・5kmが復旧され、太平洋橋周辺の国管理河川区間における築堤工事未施工箇所以外については全て完了しております。

未整備箇所については現在、仮設の鳥獣害防止施設により対応しておりますが、築堤工事完成後には速やかに施設整備を実施し鳥獣による被害防止に努めるよう

取り進めてまいります。



### ■平成30年農業気象災害等に対する支援資金利子助成金について

昨年6月以降の異常な気象変動により、減収被害を受けた農業者の営農資金借り入れに対する利子助成の措置を決定しておりますが、今般、借入資金等について確定したところであります。

本町を含むふらの農協管内における借り入れ状況としては、1119件で5億6410万2千円となっており、この内本町農業者分としては1生産法人と6農業者の

計7件で借り入れ総額は3700万円、償還年数は5年から10年となっており、当該資金に係る利子及び保証料の助成総額は125万1千円となりました。

### ■道営草地畜産基盤整備事業について

富良野広域連合が申請をしております道営草地畜産基盤整備事業については、本年4月25日付けをもつて北海道より事業採択がなされた旨通知を受けたところであります。

内容といたしまして、今年度は「調査設計業務」を実施し、今後5年間の総事業費は23億円、受益面積はふらの農協管内全体で839haとし、事業概要は、哺育・育成センターの施設整備をはじめ草地整備改良835ha、雑用水施設1300mなどの整備が予定されています。

本町の酪農経営者4戸では、草地整備55・1ha、草地造成を1・7ha実施する計画となっており、総事業

費としては1850万円を予定しております。

## ■国営農地再編整備事業の取り組みについて

富良野市山部地区を含む金山・下金山地区に導入を目指している国営農地再編整備事業については、今年度から3カ年にわたり地域の課題を把握し、地域の状況を的確に反映した農業基盤の整備方向を決めるため、旭川開発建設部において「地域整備検討調査」が実施されることになっております。

具体的には、地域別営農課題の抽出や土地利用再編に向けた検討とともに重点整備区域を決定することになります。この調査結果により、次の段階の土地改良事業計画を作成する「地区調査」への移行が判断されることとなります。

また、地区調査開始までには、地元農業者、土地改良区、富良野市、本町などで構成する事業促進期成会の設置も必要になることから、引き続き関係機関と連携し

事業の円滑な推進が図られるよう努めてまいります。

## ■公益財団法人イオン環境財団による植樹について

自然環境の保全を目的に活動されておりますイオン環境財団から、平成28年の台風災害で被害を受けた森林の復旧に対する支援の申し出があり、去る5月25日落合地区町有林被害箇所において総勢393人の参加により、ミズナラなど11種類3千本の苗木を植栽する植樹祭が行われました。

当日は天候にも恵まれ、会場では全道各地から親子



づれの参加者が多く、植樹を通して自然の大切さや、木とふれあうことによる温もりを感じるなど、とても貴重なひとときに満足されているようでありました。

今後も2年間にわたり同規模の植樹祭の開催が計画されており、町としても引き続きイオン財団と連携を図りながら、植樹祭の開催に協力してまいります。

## ■本年度本町で実施予定の国及び北海道の建設事業概要について

国直轄管理の空知川については、昨年度から河川整備計画の見直しに伴う河床の掘削工事が進められており、本年度も引き続き河床の掘削工事と築堤部の堤内盛土工事を行う旨、札幌開発建設部から説明を受けております。

道路関係については、道道金山幾寅停車場線で、ヘアピンカーブの曲線緩和のための橋梁整備2箇所が実施されておりますが、本年

3月に1橋が既に供用開始となっており、本年度は2橋目の橋桁の架設工事と橋台前後の擁壁工事がそれぞれ行われ、来年12月の供用開始を目指して工事が進められる予定であります。



北海道開発局の金山除雪センターについては、施設の老朽化に伴い移転建替えを行うため、現在の場所から金山峠に向かって、国道237号沿い磯松宅の斜め前付近において、本年度より盛土工事が行われる予定である旨説明を受けております。

## ■JR根室本線の災害復旧と路線維持をめぐる情勢について

去る4月9日にJR北海道は、国の「事業の適切かつ健全な運営に関する監督命令」に基づき、長期経営ビジョン、中期経営計画、アクションプランを公表いたしました。これらの計画は最終的に2031年度までにJR北海道が経営自立を果たすための取り組みが示されたものであり、増収とコスト削減など徹底した経営努力を柱とした内容のほか、様々な課題への対処が盛り込まれております。

特に本町が関係する内容としては、中期経営計画の中で、持続可能な交通体系の構築として、富良野新得間は「地域の皆様と合意形成を得ながら、鉄道よりも便利で効率的な交通手段を進める」という計画になっており、既に合意された石勝線、札沼線のほか日高線、留萌線とともに鉄道以外の交通手段への転換を進めるとい



たところであります。

また、6月4日には、根室線アクションプラン実行委員会が設立され、JR北海道と地域が一体となり、利用促進とコスト削減などに取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、あるべき交通体系について検討を進めることが決定されました。

このように鉄路の復旧と路線維持を求めている本町並びに根室本線対策協議会にとりましては、一段と厳しい状況を迎えておりますが、本町としましては、引き続き主張すべきことはしっかりと主張し、様々な情勢をしつかりと見極めながら、議会の皆様や町民皆様のご意見をお聞きして対応を判断してまいりたいと考えておりますので、ご理解並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■金山地区ガソリンスタンドの閉店について

今般、金山地区においてガソリンスタンドを経営しております株式会社佐藤商會代表取締役川井稔氏から一身上の都合により廃業することになり、これに伴いガソリンスタンドは本年12月20日をもって閉店することになった旨の申し出がありました。その中で、ご利用されている地域の皆様の暖房用灯油やA重油、家庭用LPガスについては、ご不便をおかけしないよう、現在、他店への引き継ぎを協議しているとのことであり、今後、具体的な引き継ぎの見通しがつき次第、情報提供をいただき、特に影響が懸念される金山地区及び下金山地区の民衆会・自治会との意見交換の機会を設けたいと考えているところであります。

全国的にもガソリンスタンドの数は、ガソリン需要の減少や、後継者難等から減少し続けており、近隣にガソリンスタンドがない住

民にとって生活に支障を来すといった、いわゆる「SS過疎地問題」の顕在化が懸念されております。

このような課題に対応するため、国においては、地域における石油製品の安定的な供給の確保を図る「SS過疎地対策検討支援事業」により、SS過疎地の自治体が、住民の利便性維持のための燃料供給体制に係る計画策定に対して、補助制度が用意されておりますが、この制度の対象となる「SS過疎地」とは、1市町村内に3カ



所以下である地域とされており、本町においては現在、金山のガソリンスタンドを含め5カ所の給油取扱所が登録されていることから「SS過疎地」には該当しないこととなっております。

現状においては、国の補助制度の活用は難しいと考えられますが、今後、地域のご意見等を踏まえ、どのような対応が可能なのかも含めて検討してまいります。

## ■道の駅「南ふらの」の再編整備について

道の駅「南ふらの」の再編整備につきましては、平成28年3月に策定した「南富良野町地域総合戦略」に基づき「小さな拠点づくりを目指す」した商工業の推進」と「自然環境を生かした観光産業の推進」の取り組みとして、道の駅整備計画の検討を進めてきたところであり、このたび平成30年度において議会特別委員会をはじめ、懇談会や町民皆様からいただいたご意見、現状分析などを踏まえた様々な課題を整

理し、再編整備にあたって必要な道の駅の機能や方向性を定め、道の駅運営活性化の基本方針として「南富良野町の魅力を凝縮したブランド力発信拠点の形成」と題して、道の駅運営活性化に向けた基本的な方針及び戦略を取りまとめたところであります。

施設整備のエリアとしては、国道38号から東側敷地である既存の道の駅エリアにおいて民間事業者との連携を含め、できる限り機能を集中させ、配置については、現施設を極力活用しながら駐車場に沿って効率的に機能を配置することにより、経費の縮減に努め再編整備を図っていくことを基本としております。

これらの計画に基づき事業を着実に進めていきたいと考えておりますが、今年度中には道の駅エリア全体の基本設計を実施したいと考えており、しかるべき時期に関連予算を確保してまいりたいと考えております。



## ■第48回かなやま湖水まつりの開催について

本年度第48回目を迎える「かなやま湖水まつり」につきましては、去る5月15日に祭典実行委員会が開催され、7月27日及び28日の2日間の日程で開催することと決定されたところであります。

昨年度は、イランカラプテ音楽祭との併催ということもあり、花火大会を含め土曜日1日のみで実施したところですが、例年2日間開催の平均来場者数の7割程度となり、また、昨年会場で実施したアンケート調査の結果では、2日間の開催で土曜日に花火を実施することを望む意見が多数を占める結果となりました。

これらの状況を総合的に考慮し、本年度は土曜日に花火大会、日曜日にステージショーを基本に2日間で開催することとし、タイムスケジュールにつきましては、詳細が決まり次第、広報誌やホームページ、チラシ等で周知を図ってまいります。

す。

また、本年度はステージ以外での初の試みとして、現在、北海道開発局を中心に推進されている自転車を活用した観光としての「サイクルツーリズム」の一助になることや、ロードバイクの普及、また地域と連携した水辺の活用を目的として、土曜日(27日)の日に午前・午後の各1回、湖畔キャンプ場から道の駅までを周遊ルートとして設定し、かなやま湖のほとりを走る「水辺のサイクリング」と称して、現在、観光協会が所有して



いる自転車を活用した体験試乗会の実施を計画しているところであります。

この事業が定着し、本町体験観光メニューの一つとして発展するよう、継続的な実施を予定しているところであり、この新たな事業の取り組みを含め、本湖水まつりの開催に対し「北海道河川財団」及び「石狩川振興財団」からも協賛をいただけていることとなっております。

## ■ファミリーサポートセンター事業について

子育て世代を地域の中で支え合う「ファミリーサポートセンター事業」につきましては、子どもの預かり等の援助を提供する、協力会員向け講習会を6月下旬に開催すべく、現在受講申込みを受け付けているところであり、6月12日現在で14名の申し込みをいただいております。

本事業の実質的な開始時期は、10月を予定しているところでありますが、一度の講習会で援助依頼全てに

対応できるものではなく、何より地域で子育てを応援するという思いが欠かせないものでありますことから、継続した講習会の開催に努めつつ、住民皆様にご理解とご協力をお願いしながら、利用会員、協力会員双方の募集に努めてまいります。



## ■介護職員初任者研修費助成事業について

この助成事業につきましては、少子高齢化の社会を迎え、介護を必要とする方が増加する一方で、介護に携わる人材が全国的に不足し、介護を専門とする事業

所だけでは支えていくことが難しくなってきたり、在宅や施設を問わず、将来の家族のための介護の知識と認識を深めていただくことを目的として本年度から介護保険法に基づく「介護職員初任者研修」の資格取得に係る費用を助成するものとして、上限額を9万円、5名の定員とし、助成利用者を募集したところです。

現在1名の方の応募があり、本町を会場に開催されている研修を現在受講されており、引き続き、介護職員の担

い手となり得る人材の育成と在宅介護における家族の介護の知識と認識を深めるため、本事業の推進に努めてまいります。

## ■消費税増税に伴う「プレミアム付商品券事業」について

本年10月から実施される消費税率の引き上げに伴う、低所得者並びに子育て世帯への影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起・下支えすることを目的と

して、国が実施いたします「プレミアム付商品券事業」につきまして、本町におきましても販売準備を現在取り進めているところであります。

対象者は、平成31年度分の市町村民税が課税されていない世帯で、市町村民税の課税者の扶養親族などになっていない方となり、生活保護受給者については、対象外となっております。

また、子育て世帯につきましては、平成28年4月2日から本年9月30日までに出生された学齢3歳未満の子が属するすべての世帯主が対象となります。

商品券の購入限度額は一人2万円で、この限度額による商品券の額面2万5千円分の商品券となります。

本事業の商品券の販売業務につきましては、町商工会に委託を予定しており、商品券は町内商工会に加盟しております町内のお店でお使いいただけます。

商品券につきましては1枚500円の額面となつて

おり、購入方法につきましては、消費税が増税となります10月1日から情報プラザ内の町商工会事務局において販売いただくこととなりますが、町より交付されました引換券と窓口来場者の身分等を証明するものとして「運転免許証や健康保険証など」を窓口に提示いただき、現金と引き換えに商品券を購入していただくこととなります。商品券につきましては、額面5千円単位での分割購入も可能で、販売期間は来年2月末まで、使用期限は来年3月末とする予定であります。

なお、今回の対象者の多くは年金を受給されている高齢者世帯であることが想定されるため、申請手続きの際には町内各地区を巡回し、臨時受付窓口を設置するとともに、販売についても10月、12月、2月の年金支給日以後にそれぞれの各地区を巡回し、各地区公民館等で臨時販売窓口を開設する予定であります。

今後、制度内容及び対象

者、申請・購入の手続きや使用方法等につきまして、町広報紙などを通じてお知らせしてまいりますので、ご留意下さるようお願いいたします。



### ■風しんに関する国の追加的対策について

昨年関東地方で感染力の強い風しんが流行したことを受け、国では緊急的な対応として予防接種法施行令を一部改正し、追加的対策を行うこととなり、本町においても改正された関係法

令及び国のガイドラインに基づき、風しんの抗体検査と予防接種を実施することとしたところであります。

風しんの予防接種は、昭和52年から開始され、現在は定期予防接種として、生後12ヶ月から24ヶ月の間に1回、5歳以上で小学校に就学するまでに1回の計2回の予防接種が行われております。

しかし、これまで予防接種の機会がなかった世代があり、特に抗体保有率の少ない昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに出生された男性を対象に、本年度から令和3年度までの3年間に限り、自己負担なしで抗体検査や予防接種を受ける機会が創設されたものであります。

また、ワクチンの国内の保有量などを考慮し、本年度については、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日までに出生された男性を対象に実施することとなっております。

本年度の本町該当者11

9名の方へは、すでに通知や受診票、抗体検査や接種に用いるクーポン券をお届けしているところであります。

はじめに、医療機関において抗体検査を行うこととなりますが、過去に風しんにかかった方や自主的に風しんの予防接種を受けた方は、抗体検査を行う必要はなく、抗体検査により「抗体なし」と判定された方が予防接種を受けていただくことになります。

詳細につきましては、個別通知及び町広報紙を通じてお知らせしているところであり、ご留意方よろしくお願い申し上げます。

### ■国及び北海道の河川防災の取り組みについて

現在、国では河川整備計画の見直しに伴い、幾寅地区内に河川防災ステーションの整備について、検討を進めているところでありますが、整備にあたっては、設置される自治体において、国土強靱化地域計画を策定し、



河川整備計画と一体となった取り組みにより事業展開を図っていくことが大切である旨の指導をいただいておりますことから、今定例会に係る予算を計上し、国土強靱化地域計画の策定を行い、河川防災ステーション整備の促進を図ることといたしました。

また、北海道管理河川であります空知川上流の水位計設置について、先般旭川建設管理部より、本年度に幾寅山畔地区の福寿橋左岸に水位観測局を設置する旨連絡がありました。これにより、空知川上流は令和2年4月からタイムラインが変更となるほか、本年度ユクトラシユベツ川の基線橋付近にも危機管理型力メラを設置する予定である旨の連絡も受けているところであり、水位監視体制の強化による河川防災の強化に期待をするものであります。

## ■防災訓練等について

町内児童・生徒を対象とした1日防災学校については、自然災害が発生する事象を事前に見ようとする「力」、想定されるイメージに対して具体的な対策を考える「力」を、自ら考え「生きる力」「想像力」を育むことを目的として本年度開催する計画であり、今般、北海道・自衛隊などと連携し、町内団体の協力を得て、8月30日に南富良野西小学校、8月31日には南富良野中学校を会場に、南富良野小学校と合同で実施する予定で進



めているところであります。

また、住民の方を対象とした避難訓練につきましては、本年度落合地区において実施する予定をしており、実施時期等につきましては、地域の事情を考慮し、今後、落合地区連合町内会と協議の上決定してまいりますので、落合地区の住民の皆様にはご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ■陸上自衛隊の町内における訓練実施状況について

町内における陸上自衛隊の訓練につきましては、上富良野駐屯地第14施設群の分隊であります第397施設中隊（釧路駐屯地所属）が、5月25日から27日までの3日間の日程で、旧地域交流センターに宿営し、かなやま湖畔を利用した渡河訓練を隊員数21名で行っております。

また、上富良野駐屯地第4特科群第131特科大隊は、5月27日に、かなやま湖畔の道道及び町道を利用した第1次徒歩行進訓練を

隊員数35名で行ない、第2次徒歩行進訓練を7月17日から18日までの2日間の日程で、旧地域交流センターに宿営し、隊員数約100名で行うとの連絡を受けているところであります。

町としましては、今後も引き続き陸上自衛隊の災害救助等の訓練実施に関しまして、協力していきたいと思っておりますので、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 教育長の 教育行政報告



### 令和元年度小中高等学校における学級編成及び指導体制について

本年度の児童・生徒数に基づく学級編成は、南富良野小学校では、2年生及び3年生が複式学級となり、普通学級が5学級、特別支援学級が3学級で児童数は73名、南富良野西小学校では普通学級が3学級、特別支援学級が2学級で児童数は16名、南富良野中学校では普通学級が3学級、特別支援学級が1学級で生徒数は49名、南富良野高等学校では各学年1学級で生徒数は55名となっており、児童・生徒数合計で193名となり、前年度より19名減となりました。

教職員体制につきまして  
は、学級数に基づく定数配  
置により、校長・教頭・一般  
教職員を含め、南富良野小  
学校では14名、南富良野西  
小学校では8名、南富良野  
中学校では12名、南富良野  
高等学校では11名となつて  
いるほか、定数配置以外の  
児童・生徒に対する指導等加  
配として、南富良野小学校で  
2名、南富良野中学校で  
1名、南富良野高等学校で  
3名が配置され、合計51名  
により児童・生徒の指導に当  
たっているところであります。  
また、学習支援員を小・  
中・高等学校合わせて3名配  
置し、支援を必要とする児  
童・生徒への指導の充実を  
図っております。

### ■平成31年度全国学力・学習 状況調査について

平成31年度全国学力・学習  
状況調査は小学6年生及び  
中学3年生を対象に4月18  
日に実施されました。今年  
度は、国語、算数、数学のほ  
かに、中学校で新たに英語  
が行われました。また、昨

年度まで、「主に知識」を問  
うA問題と、「主に活用」の  
力を問うB問題に分かれて  
いた問題形式が、本年度よ  
り教科ごとに1つとなりま  
した。

調査結果につきましては、  
9月ごろに文部科学省が全  
国平均等を公表する予定で  
あります。

各小・中学校では、調査後、  
直ちに自校採点を行い、こ  
れまでの取り組みの成果、  
課題をもとに、今後の授業  
の中でどのような取り組み  
や授業改善が必要かを把握  
し、学力向上に向け、児童・  
生徒への指導に当たってお  
ります。

また、5月20日、21日には  
外部講師を招き公開授業を  
行い、各小・中学校の教員の  
ほか、今年度より南富良野  
高等学校の教員も参加し、  
児童・生徒が意欲的に学ぶこ  
とができるよう、町全体と  
して教師力の向上と授業改  
善に努めております。

### ■令和元年度中体連陸上競 技大会について

去る6月7日旭川市にお  
いて、富良野地区5市町村  
及び上川中央地区8町合同  
の中体連陸上競技大会が開  
催され、南富良野中学校か  
ら男子1名、女子3名の計  
4名が出場しました。結果  
は、1年生男子が学年別1  
00mで第3位、女子が6  
位に入賞し、走り高跳びは  
全学年の競技で、1年生男  
子が第2位、3年生女子が  
第2位、1年生女子が第3  
位にそれぞれ入賞いたしま  
した。残念ながら全道大会  
進出とはなりませんでしたが、  
立派な成績を残すこと  
ができました。

1・2年生は来年度以降も  
積極的に参加しさらに上位



を、そして自己ベストを目  
指して頑張っていたくださ  
いと思っております。

### ■南富良野高等学校の部活 動について

去る6月7日、かなやま  
湖において開催されました  
令和元年度北海道高等学校  
カヌー大会において、南富  
良野高等学校男子3名、女  
子3名の計6名が出場しま  
した。全校生徒による応援  
を受けて各種目に挑み、2  
00m競技5種目中4種目  
で、また、500m競技5種  
目中4種目で南富良野高等  
学校生徒がそれぞれ優勝い  
たしました。優勝しました  
1年生女子1名、2年生女  
子1名、3年生男子3名及  
び女子1名の計6名は、8  
月2日から鹿児島県伊佐市  
において開催される全国高  
等学校カヌー選手権大会へ  
の出場権を獲得いたしました。  
北海道の代表選手とし  
て、自分の持てる力を最大  
限に発揮し、全国大会での  
活躍を期待するところであ  
ります。

## 議会を傍聴してみませんか

町議会は、定例会が年4回（3月・6月・9月・12月）開かれ、そのほか臨時会が必要ある時に開かれます。

町政の運営状況や議員の活動状況を知るためにもよい機会ですので、議会を傍聴してみてもはいかがでしょうか。

●次の定例会開催日● 9月18日から20日（予定）







講師 有馬 晴海 氏



講師 佐々木 信夫 氏

## ■北海道町村議会議員研修会

(6月25日・札幌市)

中野 博司

全道町村議会議員研修会に7名の議員が出席しました。研修会では、政治評論

家の有馬晴海氏による「どうなる？今後の日本政治」と、日本大学名誉教授佐々木信夫氏による「地方は変わるのか？議会はどう変わるのか」と題した講演を拝聴致しました。有馬氏の講演は、政治の流れで安倍政権がどこへ向かうかとしているのかの話の中で、いろいろ政策を出しているが、本当にやりたいていることは、憲

法改正。それをするためには、他の政策で支持率を下

げたくなきということでした。参院選後の政治の流れに注目していきたいと思

います。佐々木氏の講演は、この国は「ワニの口拡大財政」で歳出と税収の差が特に拡大して、借金が増加していると指摘している。地方議会の役割は、単なる監視やチェックは終わり、役割として、決定者、監視者、提案者、集約者の4つが挙げられる。この4つの役割を地方議会が、どう果たせるか重要であると指摘されてい

## ■優良事例視察研修

(6月26日・札幌市)

大道 重治

北海道ガス株式会社の46エネルギーセンターを7人の議員で視察しました。

高効率ガスC.G.Sの導入及び排熱利用の最大化と、太陽熱や地中熱の組み合わせによる省エネルギー効果の高いスマートエネルギーネットワーク事業を構築した施設であり、天然ガスコージェネレーション(315W・1台)、温水ボイラー(930kW・4台)、吸収式冷凍機(270RT・1基、150RT・1基)、再生可能エネルギー・太陽集熱機(77kW・1基)、地中熱ヒートポンプ(33kW・1基)が設備されている。

また、北ガスグループ本社ビルは、地下が北ガス札幌発電所となっており、川崎グリーンガスエンジン(7800kW・2台)が設備、世界最効率のガスエンジンと発電排熱の有効利用により、低炭素なエネルギー供給を実現、停電時にも稼働し、都心部のオフィスビル

に設置される発電施設としては日本最大級の施設である。



## ■町村議会新任議員研修会

(7月9日・札幌市)

遠藤 謙一

北海道町村議会議長会主催による新任議員研修会が開催され、道内99町村から新任議員255名が出席する中、当町議会からは遠藤謙一、中野博司、渋谷浩岐の新任議員3名が出席しました。

北海道町村議会議長会の村川事務局長から、議員の基本使命や会議の原則、本会議(定例会・臨時会)の議事日程や会議の進行、議案審議のあり方、委員会(常任委員会・議会運営委員会・特別委員会)や全員協議会の内容、請願・陳情の取り扱い、さらに議員の福利制度などについて約2時間の研修を受け、あらためて議員の使命を再認識するとともに議会運営に対する知識を深め、今後の議員活動に向けての心構えを新たにしましたところです。

# 議会の動き

令和元年6月～7月

6月2日 ○南富良野小学校大運動会  
○陸上自衛隊上富良野駐屯地創立64周年記念行事（上富良野町）

3日 ○富良野広域連合第1回臨時会（富良野市）

4日 ○根室本線対策協議会総会（富良野市）  
○国民健康保険運営協議会

5日 ○全員協議会

7日 ○上川地方総合開発期成会総会及び専門部会（旭川市）

9日 ○南富良野西小学校大運動会

11日 ○北海道町村議会議長会定期総会及び議長・事務局長研修会（札幌市）

13日 ○議会運営協議会

15日 ○イオン環境財団三重県松阪市植樹（三重県松阪市）

19日 ○南富良野町議会第2回定例会  
～21日 ○議会運営委員会 ○全員協議会  
○総務常任委員会  
○議会広報特別委員会  
○医療対策協議会

23日 ○北海道消防協会上川地方支部富良野地区分会消防総合訓練大会（富良野市）

24日 ○社会福祉協議会第1回評議員会

25日 ○北海道町村議会議員研修会（札幌市）

26日 ○優良事例視察研修（札幌市）

27日 ○三重県南伊勢町議会行政視察来町  
○上川町村議会議長会役員会（東川町）

28日 ○富良野地方自衛隊協力会南富良野支部役員会・総会

7月2日 ○民生委員推薦会

6日 ○南富良野大乗会スポ・レク交流会

7日 ○戦没者追悼式  
○南富良野消防総合演習

9日 ○町村議会新任議員研修会（札幌市）

17日 ○陸上自衛隊第131特科大隊南富良野行進訓練に伴う懇親会

23日 ○陸上自衛隊上富良野駐屯地幹部異動に伴う送別会（上富良野町）

27日 ○かなやま湖湖水まつり  
～28日

## 編集後記

年号が「平成」から「令和」に変わり、令和スタートの年に町議会議員選挙が行われ、無投票で当選させて頂きました。今後4年間、町民の皆さんの代表として、議会の役割を果たしてまいりますので、よろしく願います。

7月は、日照時間が少なく、農作物の生育不足が心配されましたが、一転、猛暑が続いておりますが、この広報紙が発刊される頃には実りの秋を迎えていることをお祈りします。

6月の定例会において議会広報特別委員会の設置が決定し、委員に議長を除く7名で担当する事になりました。諸先輩が築いた議会広報紙「読みやすく、分かりやすく」また「伝えるー中身」を更に充実させ町民皆さんに、親しめる紙面づくりを目指していく所存でございますので、ご意見等がありましたら、お気軽にお寄せください。

町民皆さんのご健康と、令和の時代が、南富良野町にとって、災害のない、最良の時代になりますことを祈念申し上げ編集後記とします。

（委員長 中野）